

記者懇談会の記録

日 時	令和 8 年 9 月 2 日（水）15：30～16：17
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-1・3-2
記者数	6 人

1 令和 8 年第 3 回定例会補正予算における物価高騰対策について

（市長）

第 3 回定例会の補正予算における物価高騰対策についてです。

物価高騰につきましては、今年度においては、すでにプレミアム商品券や建設券といった事業に取り組んでいますが、不安定な中東情勢に伴う灯油価格の急騰など、長引く物価高騰の影響を踏まえた中で、暖房費の出費がかさむ時期を迎えるにあたり、市独自の対策として、新たに、低所得世帯を対象とした生活支援を行うこととして、9 月定例市議会に関連予算案を提出いたします。

資料に今回の補正予算における物価高騰対策の概要をまとめています。

低所得世帯に対する生活支援として、物価高騰による家計への影響が大きい高齢者・障がい者・ひとり親世帯に対し、1 世帯あたり 1 万円を支給する事業に 1 億 2,300 万円を計上します。

支給方法ですが、マイナンバーに紐づけられた口座などに給付金を振り込む「積極支給・プッシュ方式」により、申請手続きの負担を軽減するとともに、厳冬期を迎える前の 12 月上旬には、大半の対象者への給付を行う予定としています。また、事業実施にあたっての財源として、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充てた上で、一部、一般財源の持ち出しを予定しています。

以上でございます。

<質疑応答>

（空知新聞社）

支給方法の説明があつたんですけれども、基本的には今までどおりというか、今までの支援事業の給付と同じように、事前に登録のあつた口座に対しての振り込みという形で、残りその他の登録口座のない世帯はどのぐらいの割合ですか。

(市長)

大部分がプッシュ支給方式で行うんですけれども、申請方式は 1 割もないぐらいで、9 割ぐらいは積極支給で行えると思っています。それ以外が申請方式ということになります。1 万 1,500 世帯を見込んでおり、1 万世帯は積極支給で対応できるのではないかなと考えています。

(空知新聞社)

積極支給と申請方式等で 1 カ月ぐらい積極支給の方が早いタイミングでスタートするようなんですけれども、これは何か理由がありますか。

(市長)

基準日時点での把握が容易であることと、どうしても申請方式ですと、書類を送って申請していただいて、それを受け付けしてから作業になりますので、9 月 1 日が支給基準日となりますので、準備を進めて、できるだけ早く支給するということになるかと思います。

(空知新聞社)

事務作業が登録（口座）のない世帯だと遅れてしまうということですね。

口座登録のない世帯に関しては確認してからということになるので、申請等の発送は 11 月下旬。プッシュ方式の方は 10 月下旬に通知書を送るんだけど、それ以外のところの申請に関しては、1 カ月後の 11 月下旬に発送するということですね、この 1 カ月のギャップは。

(市長)

基準日があって、現在も岩見沢市民であることがすぐ確認できる場合には速やかに手続きに入りますけれども、確認をした上で、ご指摘のとおり、申請書を送って申請書を受理してからの作業になるためです。

(空知新聞社)

どうしても遅れが生じてしまうということですね。分かりました。

2 市指定ごみ袋の素材の一部変更について

(市長)

燃やせるごみ袋の素材変更について、お知らせいたします。

岩見沢市指定ごみ袋は、これまで高密度ポリエチレンという素材を使って製造していましたが、9月の製造分から、10リットル、20リットル、30リットル、40リットルの4種類の燃やせるごみ袋の素材を低密度ポリエチレンに変更します。

その理由ですが、昨今の中東情勢の影響により、早くから高密度ポリエチレンの確保に動いていましたが、国の医療に優先的に高密度ポリエチレンを供給する方針や、ナフサ価格の高騰によって、低密度ポリエチレンの方が比較的安価で入手しやすいため、変更するものであります。なお、5リットルの燃やせるごみ袋と燃やせないごみ袋は、従来どおり高密度ポリエチレンの素材で製造します。

素材の変更によって、手触りが変わります。従来に比べ、つるつるすることや、色も濃くなりますが、強度については、日本産業規格に基づく試験を行っており、従来と変わりません。

また、従来は、バイオマスプラスチック、サトウキビなのですが、それを10%使用していましたが、これに加えて、プラスチック製容器包装を3~5%含む再生プラスチックを40%以上使用し、環境に配慮した素材を使用することとしています。

なお、家庭から出たプラスチック製容器包装を素材に使用するの、道内初となっております。

低密度ポリエチレンを使用したごみ袋は、現在のごみ袋の在庫が無くなりしだい店頭に並びますので、現在の在庫数を考えると、およそ11月から12月くらいからと想定しております。

従来のごみ袋はそのまま使用できますし、値段の変更もありません。

以上でございます。

〈質疑応答〉

(空知新聞社)

今回、素材を変更するということですが、そもそもゴミ袋の供給量っていうのがかなりひっ迫していくところから、こういうふうに変更するということだったりとかするわけではないんですか。

(市長)

そういうわけではなく、4月の記者懇談会の席でも言いましたけれども、高密度ポリエチレンが医療用の方に国としては重点的に供給をしていくという方針は、その段階でも伝えられておりましたし、私どもも業者の方とも情報共有をして、確保はしていたんですけれども、中東情勢が不安定なまま推移していますし、高密度ポリエチレンの価格自体が上がってきてるということも踏まえて、低密度ポリエチレンの方が安く、そして確保が容易にできるということです。特性自体はちょっと変わってくるんですけれども高密度ポリエチレン、今のごみ袋はシャカシャカ系というか、縦の荷重に強いんですけれども、低密度ポリエチレンは、どちらかというとソフトで伸びには強いというような特性があります。ただ、いずれも必要な耐荷重については検査をした上で、変更することとしました。

道内でも低密度ポリエチレンを採用している自治体は結構あると思います。

(空知新聞社)

分かりました。素材の変更ではあるけれども、デザインの変更ではないということですね。

(市長)

デザインは変更しません。ただ、色が濃くなります。

(空知新聞社)

素材の関係で色味が濃く見えるということですね。

(市長)

はい。

(空知新聞社)

他の自治体で、指定のごみ袋が足りなくなって、指定以外のものでも半透明であれば出していいよとか、そういうことがありましたが、岩見沢ではそういうことはないということでしたし、ごみ袋の買い占めだとかそういったこともないとは思いますが、改めて市民に何かメッセージをいただければと思います。

(市長)

春先に、「有料指定ごみ袋以外のものでも収集をします」という自治体が道内でも結構ありましたけれども、その頃から岩見沢市では、「在庫については十分確保しているので、買いだめ等はしないでください、店頭では十分な供給ができます」ということでお伝えしていましたが、現在も、十分な供給を確保しておりますので、買い占めなどはせず、必要な量だけお買い求めいただきたいというふうに思います。

(空知新聞社)

分かりました。

もうひとつ質問ですが、先ほど 5 リットルの燃やせるごみ袋と燃やせないごみ袋の方は従来どおりですということだったんですが、この理由は。

(市長)

在庫があるからです。

5 リットルはこれまで作った分の在庫が十分ありますので、変えませんが、10L から 40L までの 4 種類については変更し、燃やせないごみ袋も十分在庫があるので、それをそのまま使います。

(空知新聞社)

ありがとうございます。

(共同通信社)

新しいごみ袋の原料は安価になって環境への配慮も良くなり、機能性も強度を保っているということでしたら、このまま使い続けてもいい気がしてしまうんですけども、今後の見通しは未定となっていますが、元のごみ袋に戻す予定はありますか。それとも一時的なものなのでしょうか。

(市長)

今後の推移によります。

実は、低密度ポリエチレンでも原価は既にごみ処理有料化の手数料を上回っているんですよね。高密度の方はさらに上回っているんです。

素材については、今後の推移によるとというのが正直なところですよ。中東情勢はまだ

まだ落ち着いていませんし、できるだけ安く私どもが入手できれば、価格はすでに上回っていますが、負担の面で低密度にした方が有料化の手数料以外の市の税金分が少し抑えられると。ただ、低密度の方が安いけれども、想定している供給単価はもう既に上回っているということになります。

(空知新聞社)

赤字は赤字なんだけれどもということですよ。

(市長)

それと入手しやすいということなんですよ。

(共同通信社)

そうすると元々のごみ袋に戻るメリットというのが見えないんですね。

(市長)

元の素材に戻すかどうかについては、今後の推移次第です。

中東情勢が安定化し供給も十分になって価格も下がれば、どちらの方がいいかというのはその時点の判断になりますので、多分素材は変わりますが、ゴミ袋の使用は支障なく使えると思いますので、現時点ではまた元に戻すという考えも持っていませんし、このまま使い続けるという考えも持っていない。このまま推移を注視していくということになります。

(共同通信社)

分かりました。ありがとうございます。

3 緊急銃猟訓練の実施について

(市長)

ヒグマの出没に伴う緊急銃猟制度について、昨年 9 月に新たな制度が開始され 1 年が経過しようとしております。これまで道内では、札幌市、士別市、下川町の 3 例で緊急銃猟が実施されております。

本市におきましても、昨年 12 月に「ヒグマ出没対応マニュアル」を策定し、猟友会、警察などの関係機関と意見交換や、今年 7 月 8 日に机上訓練を行い、緊急銃猟制度の内容や対応方法など、情報共有を図ったところでございます。

今回、実地訓練を行うことで、一連の流れ、あるいは関係機関との連携などを改めて確認し、必要に応じてマニュアルの見直しを行うこととしております。

資料にありますとおり、訓練実施日は 9 月 26 日土曜日、午前 8 時から 11 時までを予定しております。

訓練の対象は、関係職員約 50 名を予定し、庁内各部横断的に訓練を実施いたします。

訓練実施場所は、萩の山市民スキー場を予定しております。本来、市役所庁舎内に設置する「庁内対策本部」を、今回の訓練では現地に設置し、現場の状況を庁内対策本部も共に確認しながら、現地対策本部との役割分担や、両本部間の情報共有・連携について確認いたします。また、市民向け広報担当については、市役所庁舎内において、情報発信の手順を確認することとしています。

実地訓練では、ドローンによるヒグマの搜索、緊急銃猟の計画立案及び公示、避難誘導及び通行規制、緊急銃猟の委託・実施など、一連の対応を行うこととしています。

市と連携する関係機関については、猟友会各部会、丘陵地鳥獣有害駆除対策連絡会のハンターのほか、岩見沢警察署、空知総合振興局、岩見沢消防署にも参加いただき、関係機関との連携についても確認いたします。

訓練スケジュールは、資料に記載した流れに沿って実施する予定です。

今回は、初めての実地訓練となりますので、緊急銃猟の実施に至るまでの一連の流れと、それぞれの役割分担、関係機関との連携を確認することに重点を置いて実施してまいります。

以上でございます。

<質疑応答>

(空知新聞社)

スケジュールの最後の方で、緊急銃猟の実施がありますが、模擬であっても実際に発砲するところまでやるんですか。それとも構えてバーンと撃った体で終わるとか具体的に決まっていますか。

(市長)

撃った体じゃないでしょうか。

(農政部長)

模擬銃を振興局からお借りし、発砲という形は取ると思うんですけど、実際には、「発砲」と言葉で言う予定です。

(空知新聞社)

モデルガンみたいもので実際に弾が出るとかじゃなくてですか。「バーン」と言って終わりですか。

(農政部長)

「発砲」と言葉で言う予定です。

(空知新聞社)

10時半の止め差し、損失確認というのは、実際に誰かが着ぐるみで倒れているということですか。

(農政部長)

ドローンを当日飛ばすのですが、赤外線が着ぐるみには感知しないようですので、看板の後ろに人間が立つような形を考えております。

(市長)

訓練の趣旨は作業手順と連携なので、着ぐるみは必要ないというふうに判断しています。

(NHK)

訓練が各地で行われていると思うのですが、岩見沢市での何か特徴的なものはありますか。

(市長)

今回の訓練内容は、特に特徴的なものではなく、必要と想定されるものを実地で訓練するということになろうかと思います。

(NHK)

50 人というのは、いろんな機関を合わせてですか。それとも市だけですか。

(市長)

市だけです。

(NHK)

では、関係機関を含めた総勢人数はもっと大人数になるということですね。

(市長)

はい。

(朝日新聞)

訓練と直接関係しているかというところとちょっと違うかもしれないんですけど、岩見沢では8月末から鶏が襲われる事案が相次いで起きていて、市民の方が懸念するところであり、何かあったときに、今回の訓練っていうのも何かしらの形で効果的なのかなと思うんですけども、最近の市内のヒグマ被害であったり目撃情報などのことで、今どのように受け止めて、この訓練っていうのはどんなイメージで行うのかみたいなところもお伺いできますでしょうか。

(市長)

養鶏場で2週続けて被害がありましたが、それがあったから実地訓練をするということではなく、元々、机上訓練の後に実地訓練を予定していたところで養鶏場等の被害が2週続けて発生をしたということになるのかなと思います。

今年度のクマの出没なんですが、これまで目撃が4件、痕跡確認が3件、合計7件です。駆除については、これまで4頭のヒグマを駆除しています。

(朝日新聞)

今、岩見沢において、対策みたいなところと言うと、住宅街での被害は岩見沢ではあまり聞かないという認識なんですけれど、訓練の際、今回スキー場で実施されるということですが、場所はどのようにして選定して、どういうシミュレーションでやるというのはもう決まってきているのでしょうか。

(市長)

緊急銃猟ですので、当然、住宅街での実施も念頭に置いた上で、今回はスキー場で訓練を行うということになるかと思います。緊急銃猟は、住宅街で行わざるを得ないようなケースも多いわけですので、そういったことを念頭に、特に、警察ですとか消防ですとかそういう関係機関との連携を念頭に置いた訓練になるかと思っています。

岩見沢のクマの駆除は、ゾーニングの考え方で行ってますので、クマの生息域と人間の生息域あるいは農業の生産地域、その間のグレーゾーンに箱わなを10基仕掛けておいて、今年は箱わなをセンサー付きで通報装置があるものなどで試験的に実施していますけれども、人間のエリアに入ってくる前にクマを駆除するという考え方ですので、あまり住宅地の中に直接クマが入ってくるというケースは少ないのですが、去年の緑が丘でのクマの目撃情報もありますので、緊急銃猟も含めて、クマ対策についてはしっかり整えておきたいと考えています。

(朝日新聞社)

ありがとうございます。

4 アール・ブリュット展の開催について

(市長)

明日、9月3日からアール・ブリュット展「One's selection (ワズセレクション)」を開催いたしますので、その概要をお知らせいたします。

独創的な技法や個性に焦点をあてて開催する本展覧会ですが、今回は、道内外8名の作家からご出展をいただくことができました。

道外からは、一筆書きアートの曾良 貞義(そら さだよし)さん、紙細工の藤岡 祐機(ふじおか ゆうき)さん、切り絵やクヌギの葉で制作した「折り葉(おりは)」で知られる渡邊 義紘(わたなべ よしひろ)さんの3作家さんからご出展いただきました。

皆様、様々な展覧会にご出展され、展覧会での受賞歴もある方々となっています。

道内からは、フライヤーデザインに採用したメディウム剥がし版画の越智サオリさんのほか、シャープペンでの繊細な画風が特徴のREI(れい)さんら、個性的な5作家さんに出展いただいております。

また、9月13日(日)には、出展作家の渡邊義紘さんに熊本県からお越しいただき、切り絵の公開制作も実施いたします。

この渡邊さんは、フランスで開催された「アール・ブリュットジャポネⅡ展（2018年）」にも出展され、天皇皇后両陛下にも切り絵をご披露なさった方です。切り絵を披露したのは、2025年の長崎での全国障がい者作品展になります。

この度の公開制作では、来場者のリクエストがあった動物をその場で切っていただけるとのことです。参加は無料となっておりますので、唯一無二のアートが生まれる瞬間を是非、間近でご覧いただきたいと思います。

以上でございます。

<質疑応答>なし

5 いわみざわ百餅祭り、いわみざわ情熱フェスティバルの開催について

（市長）

9月19日（土）と20日（日）の2日間、4条西2丁目交差点を中心として、1条から5条の栄通りなどを会場に、「第44回いわみざわ百餅祭り」が開催されます。

主な内容としては、4条西2丁目交差点で、恒例の「大臼餅つき」を19日（土）に2回、20日（日）に3回、計5回行い、ついた餅をお汁粉にして無料配布いたします。

また、「長寿餅まき」を両日に各1回行うほか、百餅櫓（やぐら）付近では、和太鼓演奏や子どもダンスの発表があります。

栄通りでは、19日（土）の13時から、飲食・物販等22店舗が出店する「百餅市」が開催され、13時30分からはオープニングセレモニーも予定しております。

協賛事業として、こども餅つきやキッチンカーマルシェ等が実施されるほか、20日（日）には、4条通り商店街振興組合の主催で、こちらも恒例となっておりますが、3歳以上小学6年生までのお子さんと大人の2人1組で餅をつく、「4条チビッ子百うす祭り」が、12時と13時の2回開催される予定となっております。

また、「百餅神輿渡御（みこしとぎょ）」と「木遣（きやり）」については、19日（土）に行われる予定です。

次に、併せて開催される「いわみざわ情熱フェスティバル」についてです。

百餅祭り期間中、駅東市民広場公園及びイベントホール赤れんがを会場として開催されます。

内容としては、「岩見沢産の食材を使用した飲食メニューの提供・販売」、「市内で製

造された製品の販売・展示」、「JAいわみざわ等による地元産の新鮮で安全・安心な、おいしい農産物の直売、加工品の販売」のほか、炭鉄港のマチなど、近隣自治体等による飲食提供や物販など、25 企業・団体の出展が予定されております。

また、イベントホールでは、市民参加によるダンス披露などのステージイベントが実施される予定となっております。

<質疑応答>なし

3 その他記者から質問

(北海道新聞)

ナフサの関係なんですけれども、先ほど、ごみ袋の素材が変わるというお話もありましたけれども、中東情勢問題がなかなか解決しませんが、その他に市長が把握していらっしゃる中で、ナフサの影響が出ているものは何かありますか。

(市長)

今のところ、市立病院の例えば手袋ですとか医療用の資材等については、十分確保できるということで確認できています。ただ、近隣の病院では、なかなか手配が難しいというような声も出ているということは聞いてはいますが、岩見沢市立総合病院に関しては納入する業者さんの方からは、しっかり確保できていますと言われて聞いています。ただ、確保しすぎないでくださいと言われていて。在庫が増えると他のところにいろいろ影響が出てくるので、適正な在庫で適正な供給を行うということで、今のところは問題はないと聞いています。

それ以外では、ごみ袋は 4 月当初からいろいろ懸念はしていたことだったのですが、素材を変えることで今後も安定供給ができますし、その他では、特にナフサに関連しては、一時、コンビニでも包装素材等々が不足になって、価格が実際にはもう上がっていますけれども、価格転嫁まではまだ至ってるかどうかなのでしょう。4 月当初にセコマの関係者の方とお会いしたときには、包装素材がかなり上がっているの、非常に影響が大きくなることを懸念しているというようなことをおっしゃってましたけれども、先日お会いしたときには、今のところは安定的に供給は確保している

とおっしゃっていました。それよりも心配なのは灯油だと思います。通常この時期、厳冬期の前の価格としては、極めて高い数字が出ています。また、物価高騰で9月にかなりの品目がまた上がりますけれども、10月は9月よりは上がる品目が少ないだろうと言われてはいますが、高止まりが長引くような気配がありますし、何よりも灯油代が上がってきているということもありましたので、低所得世帯等への1万円の給付を9月議会で実施をし、できるだけ早く、厳冬期を迎える前に支給したいということで、積極支給を12月上旬ぐらいまでに終えたいと考えているところです。

(朝日新聞)

米の概算金のことでちょっとお尋ねできたらと思います。

今年4割ほど下落すると示されているというところで、岩見沢は有数の米どころで、概算金の下がるということが市内の基幹産業に与える影響が大きいのかなというところで、その米の動向について、市長がどのように受け止めておられるのか、実際に何か米農家さんからこういう反応があるなど、把握されてるようなことがあれば、この場でご紹介いただけたらありがたいです。

(市長)

昨年の概算金が極めて高かったので、確か、ゆめぴりかで3万円、ななつぼしで2万9,000円でした。

今年は、今のところの価格の推移と需給状況からいくと、下がるのは間違いないと思っていましたが、どの程度下がるのか非常に気にしていたんですけれども、概算金がななつぼしで1万7,000円、ゆめぴりかで1万8,000円。想定以上に下がったというのが個人的な実感です。

また、実際にお米を作ってる方に聞いたんですけれども、ここまで下がるとは思っていませんでした。1万9,000円ぐらいになるかなというふうに思っていたという方が多かったですね。今後の営農の継続に向けてはちょっと厳しい数字が出たなと率直に思っています。燃料費も上がっていますし、資材関係、肥料関係も上がっていますし、そういった値上がりの中での1万7,000円は、ずいぶん思い切った数字だなという感じはしましたね。

「1万7,000円だとどうですか」と農家の方に聞いたんですが、「何とかやっていくさ」ということで、次の営農に向けてしっかり対応していくというふうにおっしゃっていただきました。

(朝日新聞)

米の情勢を巡っては、結局、安定感がなければ農家さんが続けていくというモチベーションにも大きな影響があって、農家さんたちの努力だけではどうにもならないところに、政治だったり行政の力でのバックアップが必要になるのかなと思うんですけども、想定以上に下落したということを目の当たりにされて、市長として、自治体などとの連携をして何かしていくとか、現時点でのお考えはありますでしょうか。

(市長)

過去に、物価高騰の影響で、農家の方に支援措置を取ったことがあるんですよ。そういう措置がこれから今後必要になるかどうかですとか、JA はじめ各農業関係団体がどういうお考えなのかということも今後出てくるでしょうし、そういったことを総合的に勘案してということになるかとは思っています。

農業所得自体も去年が高すぎたというのは確かにあるんですよ。

去年は、ホクレンの概算金は、ゆめぴりかが3万円でしたから、そのときに各卸は4万円で買いあさっていたような状況でしたので、そのこと自体が非常に異常だなというふうに考えてはいました。そうすると、高く購入したお米、いわゆる民間在庫を実際どこまで安く供給できるかという問題もあります。手頃な値段で買ったお米を美味しく食べたいというふうに思うのは、皆さん共通の願いだと思っていますので、需給のバランスと、営農を続けていただく上でも、適正な価格設定が必要だと思っています。

(朝日新聞)

話題は変わりますが、ふるさと納税についてお尋ねしたいんですけども、ふるさと納税の返礼品として、お米が非常に人気だと思うんですけども、最近の岩見沢のふるさと納税の動向はどのようになっているのかというところと、ふるさと納税に対する在り方、いろいろな意見はあるかと思うんですが、松野市長はこのふるさと納税をどのように受け止め、今後、どのように取り組んでいきたいかなど、お考えについて改めて伺えますでしょうか。

(市長)

岩見沢市は、ふるさと納税では、7億円がおそらく寄附金額としては過去最高額だったと思いますが、それから減ってきております。というのは、その7億円のほとんどは、おっしゃっていただいた岩見沢産の美味しいお米が非常に人気を博した時期があったんですけども、他の近隣自治体も含めてなんですけれども、お米をふるさと

納税の返礼品に取り上げる自治体も増えてきて、例えば、同じゆめぴりかでも寄付金額が自治体によって違います。手数料などの経費が寄付金額のいくら以内という決まりがありますので、岩見沢はそういった中で適正にやっているんですけども、価格競争に陥ってしまったという側面はあるかと思います。

同じゆめぴりかでも、この自治体だともっと安い寄付金額でもらえるよとか。そうすると、価格競争の面ではなかなか厳しい状況を迎えているということがあります。ただ、他の返礼品の開発も行っています。例えば、岩見沢で生産している小麦のキタノカオリを使ったパンなんかは、3,500 万円ぐらい、あるサイトでは、パン部門の 1 位となる商品も出てきております。

またお米が注目されるようなことができないだろうかというようなことは私ども庁内、関係団体ともいろいろ協議を進めているところですが、ふるさと納税制度自体はいろんなご意見があるんでしょうけれども、何百億という寄付金を得る自治体がある一方で、寄附金控除で税収入が減る自治体もあったりと、非常にバランスが悪いなという気はいたしますけれども、制度としてある以上、寄付をされる方も、寄付を受ける自治体も、ウィンウィンの関係になるような、制度本来のふるさとを応援するというような趣旨で今後も運用していけたらいいなと思います。

(朝日新聞)

自治体さんによって、戦略というか、捉え方といいますか、自主財源を獲得するための一大チャンスと捉えて、すごい振り切りでやられてるところもある印象ですけれど。

(市長)

例えば、岩見沢市で返礼品として出しているお米は岩見沢で作ったお米なんですけれども、他のところでは県内・道内という要件ですので、その自治体で作ってなくても、同一の都道府県内で作ったお米でふるさと納税返礼品を仕立て上げるっていうようなことも制度上は可能になっています。岩見沢産の美味しいお米を PR しながら、価格競争にも臨んでいきたいというのが今の心境というところでしょうか。

(朝日新聞)

どちらかというと、過度に競争していくっていうよりは、そのために寄付金の返礼品の質を上げてまでそこに配ってくれっていうことではないということですね。

(市長)

はい。そういうことではないです。

(朝日新聞)

7 億が最高で、近年は大体どのぐらいで推移していますか。

(市長)

去年で 2 億を切りました。

7 億の頃は、お米を主力の返礼品に据えていたところはほとんどなかったんですけれども、岩見沢市のようにやったら儲かるということで、そうすると今度は、価格競争になってしまった。日本中が参考にしたとは思いませんけれども、少なくとも道内ですと、例えば同じ銘柄のお米で、岩見沢市が仮に 1 万 5,000 円だとしたら、1 万 4,000 円なら価格競争に勝つので、寄付される方にとっては選択肢が増えたのはいいことですが、そういう影響は大きいのではないかなというふうに思ってます。

(空知新聞社)

直近で見えていくと、ふるさと納税で集めた額と、市民がふるさと納税で出した額の比較をした場合、岩見沢はマイナスになっていますか。

(市長)

マイナスにはなっていないはずですね。寄付していただいた額の方が多いはずですね。直近は分かりませんが、3 年前、一昨年ぐらいでは寄付金額の方が多いです。

(空知新聞社)

令和 8 年、令和 7 年度でしたか。市町村民税分がマイナスになっていたという話があったかと思いますが。

(市長)

寄付金控除額がマイナスになったら、その分の補填措置はあります。

国の制度として、マイナスになったら 75%戻ってくる形です。その分全額マイナスではなく、そのうちの 75%が国から補填されます。

(空知新聞社)

繰り返しの質問になるんですけれども、市長のスタンスとしては、ずいぶん昔の話ですが、ふるさと納税は、基本的には、ご自身としては、ふるさと応援寄附という、応援というところの趣旨を大事にしたいというスタンスを持っていたと思うんですけれど、今はどのようなお考えですか。

(市長)

そこは今も変わらないです。

ただ単に、EC（Electronic Commerce（＝電子商取引））ビジネスとして儲けたいということでふるさと納税をやるのではなく、やはり、ふるさとを応援していただきたいという趣旨でふるさと納税に取り組んでいきたいなというふうに思いますし、その発展系の一つとして、今回のテロワールプロジェクトのガバメントクラウドファンディングといったようなものにつなげていければと考えています。ふるさと納税としては、今は大きな項目でやっていますけれども、特定の項目へ、というやり方も今後増えていくと思いますし、考えていかなければとも思っています。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報室)